

JAMTマガジン、会報JAMTの広報計画2020.7.31段階

月日行事名ほか			担当理事・委員等	マガジン 10月号掲載						マガジン 1月号掲載								
				会報6.1	会報6.15	会報7.1	会報7.15	会報8.1	会報8.15	マガジン特集	会報9.1	会報9.15	会報10.1	会報10.15	会報11.1	会報11.15	マガジン特集	
6	20	総会			1					【対談】臨床検査技師の将来を占う！改訂された教育カリキュラムを踏まえて！							実地・新卒者の技師会に習地・変わりゆき実地臨	
9	5-6	第69回日本医学検査学会(予定)	福島県															
11	7-8	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会再開																
中止事業について新刊図書について代表理事挨拶執行理事挨拶理事挨拶タスクシフト進捗状況																		
行事以外の掲載	事業関連他			1	1			1	1									
	検査と健康展開催報告(中央以外)																	
	新刊図書																	
	日臨技からのお知らせ(研修会案内・募集他)						1	1	1		1							
	認定関連のお知らせ																	
	災害																	
原稿掲載数				1	1	1	1	2	2									
				入稿5.25	入稿6.10	入稿6.25	入稿7.10	入稿7.25	入稿8.10	入稿7月未	入稿8.25	入稿9.10	入稿9.25	入稿10.10	入稿10.25	入稿11.10	入稿11月未	

HbA1c 全国サーベイ

1. 目的

糖尿病を強く疑う人の数は 2000 万人を超え、血糖コントロールの指標、診断基準に含まれる HbA1c の国内標準化は重要と思われる。HbA1c 値の国内サーベイにおいて、1994 年には CV は 9.5%であったが、2013 年のサーベイでは 3.0%以内に至っている。今後、引き続き全国サーベイを行う予定だが、全国規模のサーベイとして既存の日臨技サーベイ、医師会サーベイには HbA1c の項目が入っており、これにさらに HbA1c 適正運用機構のサーベイを重ねることは各施設にも負担がかかると考える。

HbA1c 国内標準化のため、HbA1c 適正運用機構では、日臨技のサーベイと協力して HbA1c の 2 段階サーベイを行うことを目的とする。

2. 方法

二段階でサーベイを実施する。

i. サンプルの target value の設定

サーベイサンプル(生血液)を ReCCS に提出し NGSP 値を設定する。この費用は HbA1c 適正運用機構が支払う。

ii. 基幹施設へのサンプル配布

事前に許諾を得た団体のサーベイの時期に合わせて、生血液を配布する。基幹施設は、サーベイに参加する種々の施設からランダムに選択される。また、施設の選定にあたっては、HPLC 法、酵素法、免疫法がそれぞれ均等に測定されるように施設を選定する必要がある。

iii. 方法別 target value の設定

基幹施設測定結果のうち、事前に設定した target value に照らし合わせ、施設を評価する。この評価にかなった施設を方法別 target value の設定に利用する。

iv. 団体のサーベイの実施

団体のサーベイは通常通り実施する。サーベイの集計が終了したら、団体よりデータの提供をお願いする。

v. サーベイデータの評価

得られたデータのうち、結果に問題のなかった基幹施設データを集計する。これらのデータから、団体が行うサーベイデータの方法別 target value を設定する。この値をもとに、各種施設の評価を実施する。

3. 必要情報

- ・参加施設、測定機器、測定試薬*

・ HbA1c 値：サーベイの結果

4 .試用年月日

2019 年度日臨技サーベイ時**

5. 解析結果の公開方法***

雑誌糖尿病における委員会報告

HbA1c 適正運用機構 web

6. 秘密保持

HbA1c 全国サーベイの結果のみを報告し、各施設名それにひもづく検査結果については一切公開しない。

7. その他 注釈について

* サーベイ第一段階の基幹施設となる施設選定については、サンプル送付、測定方法確認が必要なため施設情報が必要だが、第二段階では測定方法と日臨技サーベイの HbA1c 値のみで施設名は必要としない。

基幹施設選定のための施設名が難しいようなら、本委員会で選定することも可能。その場合は、日臨技は施設名を公開しないで、測定方法と日臨技サーベイの HbA1c 値の提供のみとなる。

** 生血サンプル作成にあたっては、大学の倫理委員会の承認が必要なため日臨技の承認を経てから倫理委員会の運びとなるため、2019 年度のサーベイに間に合うかは確定できない。

*** HbA1c 適正運用機構は、日本臨床衛生検査技師会（JAMT）とともに日本臨床検査医学会（JSLM）、日本糖尿病学会（JDS）、日本臨床化学会（JSCC）、日本臨床検査標準協議会（JCCLS）の学会連合で 2012 年より組織されている。サーベイ費用は日本糖尿病学会より支出されるものとするため、雑誌糖尿病での報告が必要。

HbA1c 適正運用機構 委員長

村上正巳

HbA1c サーベイ小委員会 委員長

佐藤麻子

2020年1月～2021年5月 会議日程（案）

資料No.28

日時			行事内容	会 場
2020年 1月	11日	土	9:00-13:00 執行理事会議 10回	第2会議室
	24日	金	8:00-11:00 理事会 5回	ビジョンセンター
			11:30-12:45 宮島喜文政経セミナー	ビジョンセンター
			18:00-20:00 賀詞交換会	霞山会館
	25日	土	9:00-12:00 全国幹事連絡会議	第1会議室A+B
2月	8日	土	9:00-13:00 執行理事会議 11回	第2会議室
	12日	水	11:00-12:30 認定センター中央委員会	第2会議室
3月	14日	土	9:00-13:00 執行理事会議 12回	第2会議室
	27日	金	17:00～ 支部長連絡会議	第2会議室
	28日	土	8:30-9:30 9:30-12:30 理事会	第1会議室A+B
4月	7日	火	税理士監査	
	16日	木	監事期末監査	
	10日～12日		TAMT学会	
	11日	土	9:00-13:00 執行理事会議 1回	第2会議室
	18日	土	8:30-9:30 9:30-12:30 役員勉強会 理事会	第1会議室A+B
	25日～26日	土日	第69回日本医学検査学会	仙台国際会議場等
5月	9日	土	9:00-13:00 執行理事会議 2回	第2会議室
6月	13日	土	9:00-13:00 執行理事会議 3回	第2会議室
	20日	土	10:00-14:00 令和元年度定時総会	大森東急REIホテル フォレストルーム オリーブ 09:00-14:00
7月	4日	土	13:00-16:00 理事会	東急REI
	4日	土	17:00-18:00 執行理事会議 4回	第1会議室
8月	8日	土	9:00-13:00 執行理事会議 5回	第2会議室

2020年1月～2021年5月 会議日程（案）

日時				行事内容	会 場
9月	4日	金	15:00-18:00	理事会	幕張メッセ
	5日～6日	土日		第69回日本医学検査学会	幕張メッセ
	12日	土	9:00-13:00	執行理事会議 6回	第1会議室
10月	9日～10日			KAMT学会	
	17日	土	9:00-13:00	執行理事会議 7回	第1会議室
	10月下旬			監事中間監査	
11月	14日	土	9:00-13:00	執行理事会議 8回	第1会議室
	28日	土	8:30-9:30 9:30-12:30	役員勉強会 理事会	第1会議室A+B
12月	12日	土	9:00-13:00	執行理事会議 9回	第1会議室
2021年 1月	9日	土	9:00-13:00	執行理事会議 10回	第1会議室
	22日	金	12:00～	情勢報告会	開運クラブ
	22日	金	18:00～	賀詞交換会	開運クラブ
	23日	土	8:30-9:30 9:30-12:30	役員勉強会 理事会	TKPTガーデンシティPREMIUM 品川
2月	13日	土	9:00-13:00	執行理事会議 11回	第1会議室
3月	13日	土	9:00-13:00	執行理事会議 12回	第1会議室
	27日	土	8:30-9:30 9:30-12:30	役員勉強会 理事会	TKPTガーデンシティPREMIUM 品川
4月	4月上旬			税理士監査	
	4月中旬			監事期末監査	
	17日	土	9:00-13:00	執行理事会議 1回	第1会議室
	24日	土	8:30-9:30 9:30-12:30	役員勉強会 理事会 1回	第1会議室A+B
5月	8日	土	9:00-13:00	執行理事会議 2回	第2会議室
	15日～16日	土日		第70回日本医学検査学会	福岡国際会議場 等

臨地実習指導者講習会について

臨地実習指導者の創設の目的

厚生労働省の「臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会」の報告書において、全国の臨地実習施設に一定の能力並びに能力の均一化を図る必要がある。これは、医療の高度化、複雑化、患者ニーズ等医療環境は大きく変わり、これからの臨地実習では、より実践的な知識や技術の修得、医療チームの一員として検査室内に留まらず外来、病棟、さらには、在宅など患者の身近な場所での業務が増加する。このようなことから、養成施設等においては、臨地実習指導者が配置されている病院等を実習先とすることが求められる。このことは、臨床検査技師学校養成所指定規則等にその規定が明記される予定である。

臨地実習において学ぶべき事項

臨地実習では、臨床検査技師が実際の医療現場で年齢・性別・疾患など一人ひとり異なる患者さんにどのように対応するのか、学校で勉強した内容が実際の医療現場でどのように行われているのかなどについて学び、医療人としての自覚を養う

臨地実習指導者講習会の実施主体

本講習会は、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会(以下「日臨技」という。)並びに一般社団法人日本臨床検査学教育協議会(以下「教育協議会」という。)の共同で実施する。

なお、以下の医療関係団体については、本講習会の周知並びに受講の促進を依頼する。

(医師会、日本病院会、全日本病院協会、日本衛生検査所協会)

臨地実習指導者講習会について

臨地実習指導者講習会

本講習会は、厚生労働省が定める「臨地実習指導者講習会の開催指針」に基づき、事前に指定講習会のカリキュラム等を厚生労働省に提出し、厚生労働省の確認を受ける必要がある。

本講習会の受講修了者については厚生労働省名で「修了証書」が交付され、実施者が受講修了者として登録する。

開催実施担当者

- 1) 講習会を主催責任者 1名以上 ※2) との兼務可
- 2) 講習会企画責任者 1名以上 ※企画、運営、進行等を行う責任者
- 3) 講習会の世話人 グループ討議の1グループ当たり1名以上
 - ※ 企画、運営、進行等に協力する者
 - ※ 講習会を終了したもの又はこれと同等以上の能力を有する者
- 4) 実習調整者 1名以上
 - ※ 講習会企画責任者を補佐し、場合により意見する者
 - ※ 指導ガイドラインに定める臨地実習調整者

臨地実習指導者講習会の受講対象者

- 臨床検査技師として5年以上の実務経験を有し、十分な指導能力を有する者
- 医師または看護師 (在宅、介護の訪問医療については、医師、看護とすることを妨げないとされている)

臨床実習指導者講習会について（学生が学ぶべきこと）

臨地実習で学生が学ぶべき一般目標

- 1 社会人として良識を身につけるとともに、医療人として倫理観を身につける。
- 2 臨床検査の現場に身を置き、臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を取得する。
- 3 提供する臨床検査情報の意義、精度管理の必要性、そして検査研究の重要性を認識するために、疾患への興味をもち、検査情報をもとに病態解析へのアプローチを身につける
- 4 医学・医療の専門職として医療チームの一員として積極的に取り組むために、医療の中における臨床検査および臨床検査技師の役割と責任を知り、医療人としての自覚を持つ。

具体的に学ぶべきカリキュラム一覧

- 1 臨床検査技師養成施設における臨地実習制度の理念と概要・・・講義のみ
- 2 臨地実習の到達目標と修了基準・・・講義のみ
- 3 臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案・・・講義＋演習
- 4 臨地実習指導者の在り方（ハラスメントを含む）・・・講義＋演習
- 5 臨地実習指導者およびプログラムの評価・・・講義＋演習
- 6 その他臨地実習に必要な事項（確認試験含む）・・・講義＋演習

「臨地実習指導者講習会の開催指針」に基づき実施し、開催時間は、16時間以上

日本臨床衛生検査技師会臨地実習指導者講習会カリキュラム概要

講義・講演テーマ	学習目標
臨床検査技師養成施設における臨地実習の理念と概念	臨地実習指導者講習会開催の背景ならびに目的を理解する 臨地実習指導者講習会におけるファシリテーターの役割を理解する 指定規則・コアカリキュラムを踏まえて臨床検査技師養成教育における臨地実習の理念と概念を理解し、卒前教育から取り組む意義並びに目標について理解する
臨地実習指導者としての心構え（ハラスメント対策を含む）	臨地実習における対象者の権利保障・安全性の管理、個人情報保護、さらに学生に対するハラスメントについて理解し、臨地実習指導者としてのあり方を理解する。
青年期の心理的な特性を踏まえて臨地実習指導について	臨地実習を受ける学生の心理的な特性を踏まえた臨地実習指導法について理解する
医療人に必要なマナーとその指導法について（適切なSNSの使い方など含む）	医療人として必要なマナーを学ぶとともに昨今の適切なSNSの使い方などを理解する
臨地実習カリキュラムの作成とその意義	○依頼する側（養成校）として：臨地実習依頼時のカリキュラム作成に対しての要望と問題点、臨地実習確認試験の導入カリキュラムとその役割、臨地実習調整者としての立場と役割などについて学ぶ ○受ける側（実習施設）として：臨地実習受諾する施設代表者、臨地実習指導者、衛生検査所の役割としてカリキュラム作成に対しての要望について学ぶ
教育指導技法（教育学概論を含む）	教育学概論も含めて、教育の手法を学ぶ
臨床実習評価法（含む臨地実習前の到達度評価）	臨地実習に臨む前の養成校における評価について理解する
臨地実習施設における臨床実習プログラムの立案（臨地実習ガイドライン（2020作成）に沿って実習プログラムの作成および作成したプログラムのプレゼンも含む）	演習Ⅰでは臨地実習指導指針に規定されている時間数に於いて検体検査と生理学検査とに分けて臨地実習プログラムの立案を目指す。演習Ⅱでは検体系と生理系を入れ替えてプログラムの立案を行う 上記演習終了後にそれぞれの班ごとの発表形式でプレゼンを行う。
臨床実習において学生に実施させる行為について ＊水準Ⅰ、水準Ⅱ	臨地実習中に学生に実施させる行為について具体的な講義として学ぶ
臨床検査部門における医療安全の確保について	臨床検査部門における医療安全の確保について理解する
患者心理の理解とその対応について（発達障害の理解も含む）	臨床の現場における患者心理を理解し臨地実習指導を行う上での対応について理解する。
チーム医療における臨床検査技師の役割	医療チームの一員としての臨床検査技師の役割について理解する。
臨地実習指導者研修のこれからの取組について	臨地実習指導者研修のこれからの取り組みについて理解する

講習会の運営方法

臨地実習指導者講習会の運営、目標、実施方法

コロナ感染拡大前企画

厚労省が示した「臨地実習指導者講習会の開催指針」に基づく講習会は以下のように開催する。

1)中央(日臨技)での開催

都道府県技師会から1名、教育協議会から若干名で、臨地実習指導者講習会(厚労省の指針+企画責任者等養成)を開催し、7支部における開催責任者も併せて養成する。(1回のみ開催)

2)日臨技支部での開催

上記1)において、受講した者が、開催・企画責任者となり日臨技7支部の主要な都道府県において、臨地実習指導者講習会を開催する。

なお、改正「臨床検査技師学校養成所指定規則等」が2022年度の入学生から適用され、また、2024年度の臨地実習から臨地実習指導者要件が適用されることから、その前年まで必要者数を養成する必要がある。

*) 日本臨床検査教育学会協議会会員施設への聞き取り調査より算出

目標：全国で2023年度末までに1,200名*)以上の養成を目指す。

講習会の形式

- 一回当りの参加者数を50～60名程度とする。
- 参加者が6名から10名までのグループに分かれて行う討議及び発表形式として、参加者が能動的・主体的に参加するプログラムを盛り込む。
- 参加者が緊張を解く工夫をし、参加者間のコミュニケーションの確保に努める。
- グループ討議の成果及び発表の講習会報告書を作成する。

臨床検査技師実習施設指導者等養成カリキュラム

主催：一般社団法人日本臨床衛生検査技師会、臨床検査教育協議会
会場：〇〇大学 〒〇〇 〇〇〇〇 Tel〇〇〇〇

コロナ感染拡大前企画

	9:00	9:30	10:00	10:40	13:10	14:40	14:50	16:20	16:30	18:00
1日目 令和〇年〇月〇日 (〇)		受 付	開 校 式 換 拶	休 憩	臨床検査技師養成施設における臨地実習の理念と概念 教育指導技法 (教育学概論を含む)	昼食	青年期の心理的な特性を踏まえて臨地実習指導について 医療人に必要なマナーとその指導法について(適切なSNSの使い方など含む)	休 憩	臨地実習カリキュラムの作成とその意義 ◆依頼する側として 1)指定校、科目承認校 2)臨地実習前確認試験・3年制養成施設・4年制養成施設 ★受ける側として *施設代表者 *大学附属病院 *市中病院 *衛生検査所 *その他	
		30	30	10	45+45=90	60	45+45=90	10	90	休憩 10
2日目 令和〇年〇月〇日 (〇)		臨地実習において学生に実施させる行為について *水準Ⅰ、水準Ⅱ		休 憩	臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案(シラバスの作成) (ワークショップ形式の学習) *5-6名×10グループ 生理学的検査系(在宅医療含む)と検体検査系(染色体・遺伝子検査、精度管理含む)を時間を分けて交互に学んでゆく				休 憩	臨地実習プログラム立案の評価(発表)
		45+45=90		10	90	昼食 60	180		10	90
3日目 令和〇年〇月〇日 (〇)		臨地実習指導者としての在り方(ハラスメント対策を含む)		休 憩	臨床検査部門における医療安全の確保について 患者心理の理解とその対応について(発達障害の理解も含む)	昼食 60	チーム医療における臨床検査技師の役割 臨地実習指導者研修をこれからの取組について	閉講式	15:00 挨拶を含め全講義時間(18時間30分)	
		90		10	45+45=90	60	45+45=90	10		
	9:00	9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	14:50		

中央会場での開催計画

具体的な開催案

- 開催日程：令和3年1月～3月までの期間において2泊3日の日程にて開催
- 開催場所：都内の臨床検査技師養成所施設を借り上げ開催予定
- 受講対象者：日臨技会員47都道府県推薦者および日本教育学協議会推薦者7名（日臨技支部を想定）
- 研修カリキュラム：別提示
- 臨地実習指導者教本等：12月末完成予定
- 臨地実習指導者ガイドライン：臨地実習指導者教本に沿って作成予定。中央会場でのガイドラインを7支部への展開に備える（令和3年3月末完成予定）

コロナ感染拡大前企画

開催経費

※）都道府県推薦招請費は宿泊費を都道府県負担

項目	費用	備考
開催会場費	50,000円	養成校の施設の借り上げを想定
講師料	500,000円	謝金・交通費含む
日臨技担当理事招請費（14名）	1,008,000円	日臨技担当理事等（交通・宿泊・日当等）
日本教育学協議会推薦者（7名）	378,000円	教育学協議会負担（交通・宿泊費）
都道府県推薦者招請費（50名）	1,500,000円	交通費（首都圏は2名ずつ）
テキスト代	80,000円	1冊1,000円×80名分
雑費用	34,000円	通信費等
合計	3,550,000円	

臨床検査技師実習施設指導者等養成カリキュラム（日臨技支部）

主催：〇〇社団法人〇〇臨床衛生検査技師会、臨床検査学教育協議会
会場：〇〇大学 〒〇〇〇〇 Tel〇〇〇〇

コロナ感染拡大前企画

	9:00	9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	14:50	16:20	16:30	18:00	18:10	19:10
1日目 令和〇年〇月〇日 (〇)		受 付	開 校 式 挙 行	休 憩	臨床検査技師養成施設における 臨地実習の理念と概念 教育指導技法 (教育学概論を含む)	昼 食	青年期の心理的な特性を踏まえて 臨地実習指導について 医療人に必要なマナーとその指導 法について（適切なSNSの使い方 など含む）	休 憩	臨床検査部門に おける感染安全 の確保について 患者心理の理解とその対応につい て（発達障害の理解も含む）	休 憩	臨地実習指導者としての在り方(ハラス メント対策を含む)		臨地実習カリキュラムの作成とそ の意義 △依頼側 ○委託側
		30	30		45+45=90		45+45=90		45+45=90		90		60
2日目 令和〇年〇月〇日 (〇)		臨地実習において学生に実施させる行為につ いて ※水準Ⅰ、水準Ⅱ		休 憩	臨地実習施設における臨地実習 プログラムの立案(シラバスの作成) (ワークショップ形式の学習) ※5-6名×10グループ 生体学的検査系（在宅医療含む）と 検査系（総合的・遺伝子検査、精度管理 含む）を時間を分けて交互に学んでゆく (適宜休憩や昼食も含む)			臨地実習プログラム 立案の評価 (発表)	休 憩	チーム医療における 臨床検査技師の役割 臨地実習指導者研修をこれからの取組に ついて		閉 校 式	
		45+45=90			360						45+45=90		
	9:00		10:30		10:40		15:40	16:40		16:50	18:20		18:30

挨拶も含め全講義時間
(16時間30分)

令和3年以降支部開催費用概要（1回開催分）

コロナ感染拡大前企画

収入

項目	内訳	備考
受講料	6,000円×60名=360,000円	受講人数目標数として
日臨技助成金	200,000円	1回の助成金
収入合計	560,000円	

※）受講料は日臨技正会員を提示、非会員は20,000円

支出

項目	内訳	備考
会場費	50,000円	教育協議会会場を借り上げ
講師料	300,000円	謝金・交通費含む
実務員費	120,000円	理事、都道府県担当者等（交通費含む）
テキスト代	60,000円	1冊1,000円×60名分
雑費	30,000円	通信費等
支出合計	560,000円	

※）教育学協議会の実務委員費は協議会負担

日臨技助成金支出

例年各支部合計8回程度の開催（年間助成金額=1,600,000円）

新しい生活様式での講習会の進め方

Withコロナ企画

新しい生活様式での講習会は以下のように改め進める



受講者の受講方法（順序）

- 1) 日臨技HP上のWeb講修会（510分）を視聴後、受講終了証を取得
- 2) Webによる講習会が終了したものからZoomによるグループ演習講義（説明を含め460分）を受講
- 3) 上記2つの講義を受講終了したものに「臨地実習指導者講習会受講証明書」を発行する

毎回のZoomによるグループ演習講義の募集人数と開催のために必要な人員（実務委員）

- 1) 毎回の募集人数は50～60名程度とする
- 2) 開催、企画責任者1名：日臨技の担当理事を充当
- 3) グループ講義を進める講習会世話人を必要人数：日臨技の担当理事もしくは各理事が推薦する者
- 4) 臨地実習調整者1名：各支部ごとの日本臨床検査学教育協議会が推薦する者

講習会の運営方法

厚労省が示した「臨地実習指導者講習会の開催指針」に基づく講習会は以下のように開催する

1) 日臨技HP上でのWebを利用した座学講習

臨地実習指導者講習会開催指針にのっとり策定された、座学で学ぶ12のコンテンツをすべて日臨技HP上から視聴できるようにする。（視聴後には各コンテンツごとの確認テストに合格することが条件）受講生は自分の自宅、職場などで自由な形の受講ができるように環境整備を行う

2) Zoomを利用したグループ演習講義

日臨技HP上の座学講義をすべて視聴した者を対象にZoomを利用したグループ演習講義を開催（確認テスト含む）する。本講習の実務委員を開催指針にのっとり必要な人員を配置する。

なお、改正「臨床検査技師学校養成所指定規則等」が2022年度の入学生から適用され、また、2024年度の臨地実習から臨地実習指導者要件が適用されることから、その前年まで必要者数を養成する必要がある。

*) 日本臨床検査教育学会協議会会員施設への聞き取り調査より算出

目標：全国で2023年度末までに1,200名*)以上の養成を目指す。

講習会の形式

- ・一回当たりの参加者数を50～60名程度とする。
- ・参加者が少人数のグループに分かれて行う討議及び発表形式として、参加者が能動的・主体的に参加するプログラムを盛り込む。
- ・参加者が緊張を解く工夫をし、参加者間のコミュニケーションの確保に努める。
- ・グループ討議の成果及び発表の講習会報告書を作成する。

目標

Zoomによるグループ演習講義開催計画

○2023年度末までに全国で1,200名以上の臨地実習指導者を育成

*) 日本臨床検査教育学会協議会会員施設への聞き取り調査より算出

支 部	育成目標人数*)	2023年度までの支部開催計画（例）
北日本	170名	●臨地実習指導者講習会WG担当理事が予想される臨地実習指導者の育成計画を立て2023年度までに目標人数を育成していく。 （例）全国で全開催数は3年間で20回（目標人数1,200名の育成、1開催定員60名と仮定）とし3年間均等割にて開催 ・20回÷3年＝年間7回程度を担当理事が開催 ●各支部担当理事は担当支部の状況（各支部内の育成数、都道府県における育成数）を調査し、その調査をもとに育成の計画を行い進めていく。
関甲信	150名	
首都圏	200名	
中部圏	160名	
近畿	200名	
中四国	150名	
九州	160名	

日本臨床衛生検査技師会臨地実習指導者講習会プログラム（Web研修）

講義（Webによる座学）事前に日臨技HP上に研修システムを構築、それぞれの講義視聴後に確認テストを行い合格者のみ演習講義に進める	学習目標	
【第1講】新たな指定規則と指導ガイドラインについて	新たに設けられた指定規則と指導ガイドラインについて、その全体像を学び臨地実習指導者としての正しい理解につなげる。	30分
【第2講】臨床検査技師養成施設における臨地実習の理念と概念	臨地実習指導者講習会開催の背景ならびに目的を理解する 臨地実習指導者講習会におけるファシリテーターの役割を理解する 指定規則・コアカリキュラムを踏まえて臨床検査技師養成教育における臨地実習の理念と概念を理解し、卒前教育から取り組む意義並びに目標について理解する	45分
【第3講】教育指導技法(教育学概論を含む)	教育学概論も含めて、教育の手法を学ぶ	45分
【第4講】青年期の心理的な特性を踏まえて臨地実習指導について	臨地実習を受ける学生の心理的な特性を踏まえた臨地実習指導法について理解する	45分
【第5講】医療人に必要なマナーとその指導法について（適切なSNSの使い方など含む）	医療人として必要なマナーを学ぶとともに昨今の適切なSNSの使い方などを理解する	45分
【第6講】臨床検査部門における医療安全の確保について	臨床検査部門における医療安全の確保について理解する	45分
【第7講】患者心理の理解とその対応について（発達障害の理解も含む）	臨床の現場における患者心理を理解し臨地実習指導を行う上での対応について理解する	45分
【第8講】臨地実習において学生に実施させる行為について	臨地実習中に学生に実施させる行為について具体的な講義として学ぶ（水準Ⅰ、水準Ⅱおよび実施させることが望ましい行為について学び、その確認法の遵守について徹底する）	45分
【第9講】臨地実習評価法(含む臨地実習前の到達度評価)	臨地実習に臨む前の養成校における評価について理解する	45分
【第10講】臨地実習カリキュラムの作成とその意義	依頼する側（養成校）と依頼される側（実習先）の臨地実習依頼時のカリキュラム作成に対しての要望と問題点などについて学ぶ	30分
【第11講】チーム医療における臨床検査技師の役割	医療チームの一員としての臨床検査技師の役割について理解する。	45分
【第12講】臨地実習指導者研修をこれからの取組について	臨地実習指導者研修のこれからの取り組みについて理解する	45分
合計		510分

グループワークによる演習講義（Zoomによる講習）

Withコロナ企画

演習（Zoomを利用） それぞれグループ5～6名でそれぞれグループ討議、その後発表する。受講には座学講義の受講済み必須とする。	学 習 目 標	時間
【開講説明】	演習講義について進め方を説明	10分
【演習1】臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案(シラバスの作成) 生理学検査	2020臨地実習ガイドラインに沿って生理学検査系臨地実習プログラムの立案を目指す。 (グループ討議後に講師からコメントをもらい作成プログラムは成果物として提出)	90分
【演習2】臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案(シラバスの作成) 検体検査	2020臨地実習ガイドラインに沿って検体検査系臨地実習プログラムの立案を目指す。 (グループ討議後に講師からコメントをもらい作成プログラムは成果物として提出)	90分
【演習3】臨地実習指導者の在り方（ハラスメント防止を含む）：グループ討議	臨地実習における対象者の権利保障・安全性の管理、個人情報保護、さらに学生に対するハラスメントについて理解し、臨地実習指導者としてのあり方を理解する。	90分
【演習4】臨地実習プログラム立案の評価	臨地実習指導者および臨地実習プログラムの評価を行うことについて、どのように考えるか、また臨地実習プログラムを評価する場合に考えられる評価項目や、評価方法について検討を行う	90分
【演習5】その他臨地実習に必要な事項	臨地実習前後の評価を展開していくために必要な教育結果の判定方法、臨地実習の質向上を図るための学校養成施設と臨床実習施設の連携のあり方等について議論する。（確認テスト含む）	90分
合計		460分

開催例

8:30	9:00～10:30	10:30～12:00	1:00～2:30	2:30～4:00	4:00～5:30	5:30～
開 講 説 明	【臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案】 (ワークショップ形式の学習) 生理学検査系(在宅医療含む) グループ討議後に講師からコメントをもらい作成プログラムは成果物として提出	【臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案】 (ワークショップ形式の学習) 検体系(染色体・遺伝子検査、精液管理含む) グループ討議後に講師からコメントをもらい作成プログラムは成果物として提出	昼食	【臨地実習指導者としての在り方】 (ハラスメント対策を含む。指導者はどうあるべきか等をグループ討議)	【臨地実習プログラム立案の評価】 (テーマを出し、問題ある指導者やプログラムのどこが問題なのか等をグループ討議)	【その他臨地実習に必要な事項】 (臨地実習前後の評価を展開していくために必要な教育結果の判定方法、臨地実習の質向上を図るための学校養成施設と臨床実習施設の連携のあり方等いくつか自由にテーマを与え議論する。また、すべての講義での確認テストもここで行う)
	90	90		90	90	460

※）参加者60名でのZoomブレイクアウト機能を利用した少人数でのグループ討議の開催

Web + Zoom講習会の開催経費（20回分）

Withコロナ企画

収入

項目	内訳	備考
受講料	3,600,000円	3,000円×1,200名
収入合計	3,600,000円	

※）受講料は日臨技正会員を提示、非会員は20,000円

支出

項目	内訳	備考
講師料	300,000円	謝金（コンテンツ作成費）
実務員費	1,144,000円	理事、講習会世話人の11名の日当
担当理事訓練費	291,200円	理事14名の日当×4回
テキスト	600,000円	1冊500円×1,200名分
雑費	1,264,800円	Webシステム改修費等
支出合計	3,600,000円	

※）教育学協議会の実務委員費は協議会負担

想定される日臨技担当理事とその役割

日臨技臨地実習指導者講習会WG担当理事

支部	担当理事 氏名	担当理事 氏名
北日本	居鶴 一彦	桑原喜久男
関甲信	宮原 祥子	深澤 恵治
首都圏	小田 憲一	片山 博徳
中部圏	直田健太郎	南部 重一
近畿	勝山 政彦	竹浦 久司
中四国	藤田 望	樫林 秀記
九州	山口 英人	手登根 稔

総括：深澤 恵治、サブ：竹浦 久司

臨地実習指導者講習会WG担当理事の役割

- ・支部内連絡会議等において、この講習会の情報伝達と調整
- ・臨地実習指導者講習会の企画立案、開催の作業を行う
- ・臨地実習指導者講習会の世話人および世話人の調達の作業を行う
- ・臨床検査教育学協議会と本講習会開催に関して調整を行う
- ・臨地実習指導者講習会の開催指針に基づき、実績報告書の取りまとめの調整

新しい生活様式での講習会の進め方（新型コロナ収束後）

Afterコロナ企画

新型コロナ収束後の新しい生活様式での講習会は以下のように改め進める

従来の集合研修
座学の講義（会長挨拶を含め12コマ）
演習を含む講義（5コマ）

Web、実地講習を利用した合計16時間の講義
日臨技HP上でのWebによる映像視聴による講義へ移行
各支部主要な都道府県において集合演習講義の開催

受講者の受講方法（順序）

- 1) 日臨技HP上のWeb講修会（510分）を視聴後、受講終了証を取得
- 2) Webによる講習会が終了したものから実地によるグループ演習講義（説明を含め460分）を受講
- 3) 上記2つの講義を受講終了したものに「臨地実習指導者講習会受講証明書」を発行する

実地によるグループ演習講義の募集人数と開催のために必要な人員等（実務委員）

- 1) 毎回の募集人数は50～60名程度とする
- 2) 開催、企画責任者1名：日臨技の担当理事を充当
- 3) グループ講義を進める講習会世話人を必要人数：日臨技の担当理事もしくは各理事が推薦する者
- 4) 臨地実習調整者1名：各支部ごとの日本臨床検査学教育協議会が推薦する者
- 5) 実地研修の会場は教育学協議会会員施設を借用

臨地実習指導者講習会の運営、目標、実施方法

Afterコロナ企画

講習会の運営方法

厚労省が示した「臨地実習指導者講習会の開催指針」に基づく講習会は以下のように開催する

- 1) 日臨技HP上でのWebを利用した座学講習
臨地実習指導者講習会開催指針にのっとり策定された、座学で学ぶ13のコンテンツをすべて日臨技HP上から視聴できるようにする。（視聴後には各コンテンツごとの確認テストに合格することが条件）受講生は自分の自宅、職場などで自由な形の受講ができるように環境整備を行う
- 2) 日臨技支部での開催
上記1)において、受講終了したものを対象に日臨技7支部の主要な都道府県において開催される臨地実習指導者講習会グループワーク演習講義を開催する。
なお、改正「臨床検査技師学校養成所指定規則等」が2022年度の入学生から適用され、また、2024年度の臨地実習から臨地実習指導者要件が適用されることから、その前年まで必要者数を養成する必要がある。

*) 日本臨床検査教育協議会会員施設への聞き取り調査より算出

目標：全国で2023年度末までに1,200名*)以上の養成を目指す。

講習会の形式

- ・一回当たりの参加者数を50～60名程度とする。
- ・参加者が少人数のグループに分かれて行う討議及び発表形式として、参加者が能動的・主体的に参加するプログラムを盛り込む。
- ・参加者が緊張を解く工夫をし、参加者間のコミュニケーションの確保に努める。
- ・グループ討議の成果及び発表の講習会報告書を作成する。

日本臨床衛生検査技師会臨地実習指導者講習会プログラム（Web研修）

講義（Webによる座学）事前に日臨技HP上に研修システムを構築、それぞれの講義視聴後に確認テストを行い合格者のみ演習講義に進める	学習目標	
【第1講】新たな指定規則と指導ガイドラインについて	新たに設けられた指定規則と指導ガイドラインについて、その全体像を学び臨地実習指導者としての正しい理解につなげる。	30分
【第2講】臨床検査技師養成施設における臨地実習の理念と概念	臨地実習指導者講習会開催の背景ならびに目的を理解する 臨地実習指導者講習会におけるファシリテーターの役割を理解する 指定規則・コアカリキュラムを踏まえて臨床検査技師養成教育における臨地実習の理念と概念を理解し、卒前教育から取り組む意義並びに目標について理解する	45分
【第3講】教育指導技法(教育学概論を含む)	教育学概論も含めて、教育の手法を学ぶ	45分
【第4講】青年期の心理的な特性を踏まえて臨地実習指導について	臨地実習を受ける学生の心理的な特性を踏まえた臨地実習指導法について理解する	45分
【第5講】医療人に必要なマナーとその指導法について（適切なSNSの使い方など含む）	医療人として必要なマナーを学ぶとともに昨今の適切なSNSの使い方などを理解する	45分
【第6講】臨床検査部門における医療安全の確保について	臨床検査部門における医療安全の確保について理解する	45分
【第7講】患者心理の理解とその対応について（発達障害の理解も含む）	臨床の現場における患者心理を理解し臨地実習指導を行う上での対応について理解する	45分
【第8講】臨地実習において学生に実施させる行為について	臨地実習中に学生に実施させる行為について具体的な講義として学ぶ（水準Ⅰ、水準Ⅱおよび実施させることが望ましい行為について学び、その確認法の遵守について徹底する）	45分
【第9講】臨地実習評価法(含む臨地実習前の到達度評価)	臨地実習に臨む前の養成校における評価について理解する	45分
【第10講】臨地実習カリキュラムの作成とその意義	依頼する側（養成校）と依頼される側（実習先）の臨地実習依頼時のカリキュラム作成に対しての要望と問題点などについて学ぶ	30分
【第11講】チーム医療における臨床検査技師の役割	医療チームの一員としての臨床検査技師の役割について理解する。	45分
【第12講】臨地実習指導者研修をこれからの取組について	臨地実習指導者研修のこれからの取り組みについて理解する	45分
合計		510分

グループワークによる演習講義（実地研修）

Afterコロナ企画

演習（各支部主要都道府県）1回60名の募集 それぞれグループ5～6名でそれぞれグループ討議、その後発表する。受講には座学講義の受講済み必須とする。	学 習 目 標	時間
【開講説明】	演習講義について進め方を説明	10分
【演習1】臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案(シラバスの作成) 生理学検査	2020臨地実習ガイドラインに沿って生理学検査系臨地実習プログラムの立案を目指す。 (グループ討議後に講師からコメントをもらい作成プログラムは成果物として提出)	90分
【演習2】臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案(シラバスの作成) 検体検査	2020臨地実習ガイドラインに沿って検体学検査系臨地実習プログラムの立案を目指す。 (グループ討議後に講師からコメントをもらい作成プログラムは成果物として提出)	90分
【演習3】臨地実習指導者の在り方（ハラスメント防止を含む）：グループ討議	臨地実習における対象者の権利保障・安全性の管理、個人情報保護、さらに学生に対するハラスメントについて理解し、臨地実習指導者としてのあり方を理解する。	90分
【演習4】臨地実習プログラム立案の評価	臨地実習指導者および臨地実習プログラムの評価を行うことについて、どのように考えるか、また臨地実習プログラムを評価する場合に考えられる評価項目や、評価方法について検討を行う	90分
【演習5】その他臨地実習に必要な事項	臨地実習前後の評価を展開していくために必要な教育結果の判定方法、臨地実習の質向上を図るための学校養成施設と臨床実習施設の連携のあり方等について議論する。（確認テスト含む）	90分
合計		460分

開催例

会場：〇〇臨床検査技師養成大学

	8:30	9:00～10:30	10:30～12:00		1:00～2:30	2:30～4:00	4:00～5:30	5:30～
開講説明	【臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案】 (ワークショップ形式の学習) 生理学検査系（在宅医療含む） グループ討議後に講師からコメントをもらい作成プログラムは成果物として提出	【臨地実習施設における臨地実習プログラムの立案】 (ワークショップ形式の学習) 検体系（染色体・遺伝子検査、精度管理含む） グループ討議後に講師からコメントをもらい作成プログラムは成果物として提出	昼食	【臨地実習指導者としての在り方】 (ハラスメント対策を含む。指導者はどうあるべきかをグループ討議)	【臨地実習プログラム立案の評価】 (テーマを出し、問題ある指導者やプログラムのどこが問題なのか等をグループ討議)	【その他臨地実習に必要な事項】 (臨地実習前後の評価を展開していくために必要な教育結果の判定方法、臨地実習の質向上を図るための学校養成施設と臨床実習施設の連携のあり方等いくつか自由にテーマを与え議論する。また、すべての講義での確認テストもここで行う)		解散
	90	90		90	90	90		460

Afterコロナ企画

支 部	育成目標人数*	2023年度までの支部開催計画（例）
北日本	170名 （3回）	●臨地実習指導者講習会WG支部担当理事が予想される臨地実習指導者の育成計画を立て2023年度までに目標人数を育成していく。 （例）関甲信支部の育成：1回60名として ・2021年度：1回の実地による講習会の開催 ・2022年度：1回の実地による講習会の開催 ・2023年度：1回の実地による講習会の開催 合計：2023年度までに3回の主要都市での演習講義講習会を開催することにより関甲信支部では臨地実習指導者を計画通りに育成することが出来る。 ●各支部担当理事は担当支部の状況（各支部内の育成数、都道府県における育成数）を調査し、その調査をもとに育成の計画を行い進めていく。
関甲信	150名 （3回）	
首都圏	200名 （4回）	
中部圏	160名 （3回）	
近畿	200名 （4回）	
中四国	150名 （3回）	
九州	160名 （3回）	